

バストス週報

第七二四号
昭和卅九年
二月廿一日
発行

DIRETOR
DITI MORI

REDATOR
SHION ODA

RUA PRÉS.
VARGAS 188
C. P 112
Bastos
C. P

ANUAL
CR. \$
1.000,00

逸球 8

提案

その一 文化協会主催の
カナバルバイレー

数日前ピアジアンテの宮田という人が
来て、ツパンでは今年はじめに文化協会
主催でカルナバルのバイレーをやったが
頗る盛大、大成功だったという話をした。
これまでもツパンではカルナバルが
近づく毎年のように日本人会へ文化協
会へ主催でバイレーをやろうではないか
という提案が出たが反対者が多くま
うなかつた。いづくも同じ提案者は若手
、反対者は老輩、四対六ぐらいで成立し
なかつた。反対の理由はカルナバルスコ
につきものの不詳事、ケンカ、いまわし
い男女関係など不道德的なことを忌むと
いうので、文協主催の際そんなことであ
ったら責任重大、君子危きに近よらずの
事勿れ主義からであった。

実行派の方にも理由がある。伯人武の
カナバルスコの中へ若い男女がとび込ん
で行く現状こそ日系にとつて、より心配
ではないか。家族じゅうが揃ってカナバ
ルを享受する雰囲気を作る方が、より安
全で楽しい。又カルナバルスコはクル
ブ主催でやんのが多いから、誰でも勝手
に入場できない。メリザなども近頃では
十コント以下では予約できないので一寸
近よりがたい。文化協会主催でやれば、
日系人会員は家族とも出席できるし、よ
っぽり入場せんとする不良を断るこ
ともできる。老人もメリザり処か孫たち
が踊り騒ぐのを飲み下り見物するのもし
ハオツではないかと主張するのである。
アラジルに三十年も居てカルナバルスコを
一度も見ないことないのは自慢にならぬと
若手が云うので、それでは一度やってみ
るかということになり、所有の会館で、
日系人で組織しているバンダをたのみ、
許可をとつてやることにした。費用は二
百コント程寄ったキフ金を当て、入場料
もメリザも無料、飲食は誰かに受請せた
やつて見ると実に愉快で五十、六十の老
人もついでかかれて騒ぎ出す有様。四日間
大成功、これに味を占め、毎年実行する
ことになったというのである。この話ま
さか嘘ではないと思うが、疑わしかつた

ALFAIATARIA IMPERIAL



丸山洋服店

社長
タイアの
青年
マルヤマのテルノでナホン

胃腸と栄養

ウカゼ

綜合V・B酵素養料



UAKA



どんなお肌にもぴったり合う
わかクリーム

アブラ肌には わかバニシング
ア、レ肌には わかコールドリンペダ
正常の肌には わかウニベルサル
湯上りには わかアストリンセンテ
万能クリーム用 わかローション

薬局でお求め下さい

わか化粧品一切そろっています

わか美容化学研究所 C.P 3656

SAPATARIA BASTOS



お買い物くらの外出なら
このカルイック

室内用にもけつこう

早川靴店へ

ツッパンの文化協会に問合せで見るとよい。そこでバストスの文化協会へも提案して見る次第だが、一つ来年のカルナバルには文協主催でやってみては如何。ハナの先きで吹きとばしてしまふようではツパンに比べてバストスは、まだ神代時代ということになる。やってみる気があるかないか、また一度も試案もなかつたであろうか、人のまねだとて少しもおかしい事はない筈。

その二 デザストレ皆無案

これはスールアラジルホンヤイア支部の山本さんの話。十日ばかり前山本氏はムンサの荷をカミニオンにつんで上陸した。バウルから先になる程交通頻繁で、地名はさきそびれたが、カミニオンジール、ピルア、乗用車、ガムケ所等事故を起しているのを目撃した由、つづれたのや、横転しているのや、土手からぶらさがったのや、それぞれ、デザストレの種々相を物語っていたが、取り片つけられないのを見ると現場検証がまだすんでいない模様だった。

「何とかならんものか叔父」と山本さんは嘆くのであるが、結局スピード禍の一車を追いつく時、起る事故が一番多いといわれる。車を操縦している人は、それを充分知っている筈だが全速力を出しているため一瞬の操作をあやまるものらしい。自動車は急速に進歩をしていないこと、交通道徳が比例的進歩をしていないこと、事故の原因となるようである。

技術が未熟の場合、及不注意の場合も原因に救えられる。自今、正当に車を使っているにも相手から仕かけられることもあるので、そういう時は不運とあきらめられない。デザストレを無くする道は車を使う人の総てが交通規定を守り、道徳を重んじ健康な身心状態を為すことであり、スリルを味って悦に入るが如き不謹慎を厳に戒しめる可きである。

日系コロニアからは此後デザストレは決して起しませんとする運動を提案したい。その手始めに、バストスの運転手たちは絶対不起さぬ決意を申合せて頂き、無謀な競走心など夢にも持たぬよう慎重に行動されんことを切に希うものである。各地で各人が真に交通道徳に覚醒して事故を起さぬ心がけを日に日に新らしめるならば、デザストレを皆無にすることが出来るのではないか。

軍隊で昔使った言葉「タルンドル」これが今の交通族にあてはまればせぬのであろうか。

(赤音)

芸術の香りがいじやうを かあなたあなたの み身边まわりに

日本の時計とけい シチズンシチズンは

芸術の香りを放つ本格的な
デザインデザインです

時を刻むだけの時計なら、どこの国にも出でて居ります

バストスの
柴田時計店ケイテンは

今は小さな店ですが、若い希望に燃えて、時代と共に生きる、若さの溢れる店です

きょうは何日だったか？
もうカレンダーを見る必要ありません
時間の外に日付までわかり
自動巻で、六十メートルの深海の
水圧に耐える

日本の時計
シチズンシチズンを、どうぞ

時計は丈夫にできて居て、長持ちするものですが、
取扱いは丁寧で、大事に
して下さい

あなたの時計に一寸でも変わったこと
がありましたら、時計の病院
シバタへ、おみせ下さい

時計、メガネ、指輪、冷蔵庫、
ホゴン、マシン、ラジオ、
家庭用電気器具一切
時計、メガネの修理一切

勉強する、シバタ

Rua Adhemar de Barros

金婚式

夫婦が結婚して五十年目に行う祝賀の式が金婚式というわけだが、何しろ五十年生きたるのにも相当骨が折れるのには容易なものではない。

去る二月十一日、もとの紀元節にあたる日、カナバルの最終日、加藤幸太郎とよ御兩人は人生に於ても最も難関といわれるカンセンジュンガの最頂峯に達する光栄をかち取った。何びとも易々とは達し得ぬ偉業を成就したのだから、御本人たちも満足である。家族の方々も嬉しかろうし、彼の知友たちも声を揃えて慶賀の辞をおくったことであらう。長寿はめでたいという。しかしこれには條件がある。ひよろひよろの長寿は必ずしも目出度いとは言いがたい。経済に恵まれぬ長寿も感心しない。お茶の水橋の畔で行人の仁慈にすかつて帽子の中の金を数えているようでは、白髯いかに長くとくも、お目出度いとはいえない。又宝は宝でも子宝にも恵まれないと、いけない。かよいに健康と経済と子孫の三条件の上には老夫婦が欠けず、でんと座してはじめて金婚の祝典を祝い、人を招いて饗応する資格があるのだから、有資格者が少いのは当然であり、稀少価値からいっても銅や銀に位して金婚といわれる所以であらう。

パストスにも金婚の祝宴を行った人は畑中氏御夫妻、小林金次郎御夫妻その他時折話に聞かぬこともないが、そうザラにはない。加藤幸太郎氏は大正二年の紀元節廿一才で、十八才のとよさんとカーザし、五十年を無事に暮したが、まだついでこのあだの事のようには思われる速衰しているが、人間金婚式を目標に人生航海航路にのり出すとすれば、すべからず加藤さんのように二十歳か二十一歳でカーザしなれば勝率は少いであらう。三十から三十過ぎて結婚するようでは、金婚式に達するは、八十になつてしまふ。そのうちにはヒビが入つたり、こわれてしまふおそれが多分にある。焼物の皿がドンブリ、五みに申上りて恐縮だが、老人なんて全く九谷焼さみないなものである。ところどころで加藤さんと私は三十八年位前ノロエスタの耕地で、あまり遠くない所に住んでいたことがある。身体は、ごそんちの通り余り高いことはないが、横にはち切れるような体格で、力の強いことにかけては耕地内一二を争う程だった。あ

て見物に行つた。加藤さんは青年を相手に誓古をつけていた。腰をおとしてぐつと構えた三十五歳の加藤さんの胸にぶつかつて行つてはねとはこれぬ青年は一人もいない程加藤さんは強かった。その内半黒の大男ジョセフが、おれにもやらせろと仲間に入り、加藤さんに、ひねくりまわされて子供あつかいにされ、見物人は大笑をした。

これは私が目撃した話ではないが、フセフの荒牛を救った。扱いかねていてのを、両角に手をかけ苦もなく押し倒して皆を驚かした。角力の手を応用したのかどうかは、はつきりしない。加藤さんは脈好きで豚を次山飼つていたが、屠殺した日(トミジ)は道所の人を叫んで大鍋で臍物や骨の料理をふるまい、ヒンガはキントから出しては飲ませたりした。太っ腹で泣きごとを言わぬ人だった。が老来、生長の家熱心な読友となり、人柄に益々円熟味を加え、心の底から人生を楽んでいる風格がある。私は加藤さんとは、つかずはなれずの交友をつづけていた。パストス入植以来、いづれ長くながるが、仕事の関係で全然姿を見ぬ時もあり、近頃のように、三日に一回も往來して連絡をとるともある。彼は健康、身心共に健康だから、まだまだ活躍するだろう。切に天寿の豊かなうんことを、御夫妻に偉多からうんことを祈る。

御礼

舎弟正名儀

去る二月四日カタンツィバ市付道で交通事故のた負傷致しました節は大層御心配をおかけ致し、御丁寧なる御見舞を頂き誠にありがとうございます。また、幸い負傷箇所は急所を外れて居りました為、顔面十数針の接合で一行中では比較的軽い方で、今では歩行も出来るようになり、追々とは全癒することと存じます。御見舞下さった方々へ御礼に参上致すべく、さすが取敢えず失礼乍ら紙上を以つて厚く御礼申上げます。

一九六四年二月十二日

兄 小林 平 志

小林正名家族一同

知友御一同様

死亡通知並に会葬御礼

夫、山田悦治儀、去る二月四日朝養雞見学の途次、アララクワラ線カタンツーバ市郊外十字路に於きまして、交通事故に遭遇し、頭部其他全身に打撲傷を負い、直ちに同市サンタカーザに収容いたし加療中でありました。が、遂に手当の甲斐なく、二月七日午後七時、行年四十二歳を一期として永眠致しました。依って直ちに遺体を引取り、翌日、八日午後四時半自宅出棺、バストス南米本願寺に於て告別式を行ない、バストス墓地に埋葬致しました。此の旨生前御交誼を賜わりました知友各位に御通知申し上げます。尚葬儀に際しましては、炎暑の折柄、遠路御厭いも無之、多敷の方々に御会葬頂きましたことを厚く御礼申し上げます。又当日は身に余る過分の御香料、御供華等賜わり重ねて厚く御礼申述べます。実は、一々拝眉の上御礼申上げべきに、取込中共の意を得ず、畧儀乍ら週報紙上にて御礼の言葉を申上げる次第でございます。

一九六四年二月九日

ファルツトラ区

喪主

妻

山田

又三

子

長女

山田

靖子

子

長男

山田

繁治

子

二男

山田

惠美

子

二女

山田

重次

郎

父

山田

と

一郎

母

山田

武君

一代

兄

山田

統平

名

親戚

西川

正実

等同

嫂

小林

義一

同

反人代表

竹内

義一

健輝

池田

義一

健輝

- バストス産業 組合 様
- クラシヤバストス 組合 様
- バストス 養雞組合 様
- バストス南米本願寺 様
- 南米銀行バストス支店 様
- バンディラシテ産組バストス出張所 様
- ファルツトラ区 会 様
- ファルツトラ男女農友会 様
- フラタク製糸株式会社バストス工場 様
- ボンフィン区 会 様
- ファルツトラ男女青年団 様
- ボンフィン男女青年団 様
- 其他 知友 各位 様

細江静男著

アマゾン先生

3

おしよっぱいコーヒー

それからこんなこともあった。隣りのパラマウンサ農場主の管理人の細君が、お産がはじま、たが五日たつても産れな。い。汽車でサンパウロの病院まで運ばねはならぬが、これでは死んでしまう。と三十五六キロさきのランシヤリヤ街道から呼びに来た。行ってみるとイギリス人である。さかんにしゃべるが半分くらいしか判らない。わかつた時にはすでに次の話にうつっている。全くチンパンカンフンだ。エイ、何でもいい。とにかく生ませることだ。と診察をはじめた。横位である。体力もすつかり参っている。そこで私の病院に運んで帝王切開をやる。といふと大変驚きガタガタ震え出した。がそれより他に方法がないので同意した。早速私のフオードで運び出し、無事に手術を終えた。母子ともに健在である。ひとく喜ばれて彼の勤務先であるパラマンサ会社からは感謝状がきた。

また、ここから八十キロあまりはなれた太田耕池という日本人農場の隣りに最近ドイツ人が移住して開墾に着手している。

と、ころが、ある日、細君のお産が重く生死の境にあるからせひ来てくれるといふ使いが来た。暗夜烈しい雨をついて出かける。行ってみると全く開墾を始めたばかりの奥でコックレイロ椰木の小屋のうしろからすでに原始林だ。傍の低地では山蛙が「クワウ、クワウ」とさかんに鳴いている。これはマラリアの発生しやすい最悪の条件であると思ひ乍ら産婦をじらべると逆子の外に異状はない。これなら安心と早速産ませてもらった。主人は喜んでコーヒーをすすめた。ところが一口のうで見ると塩味だ。この夫婦は砂糖を買ったのであつた。塩でコーヒーをゆんでいたのであつた。

このドイツ人とは二十何年かのちに北パラナのある町で偶然出会つた。あの時生れた男の子がすつかり大きくなつて、その子と一しょにガソリンスタンドを経営していた。彼らは大いに喜んで町の有力者を招き、私のために盛大な晩餐会をやつてくれた。

こんなことをしながらも私はブラジルでの医師開業資格を得るために専攻の試験をパスしておかなければならなかつた。毎朝受験準備をやることもに現地人とはなるべく多し接し、会話をマスターすることはなるべく多し接し、これは後になつてわかつたことだが、奥地の現住民の大部分は

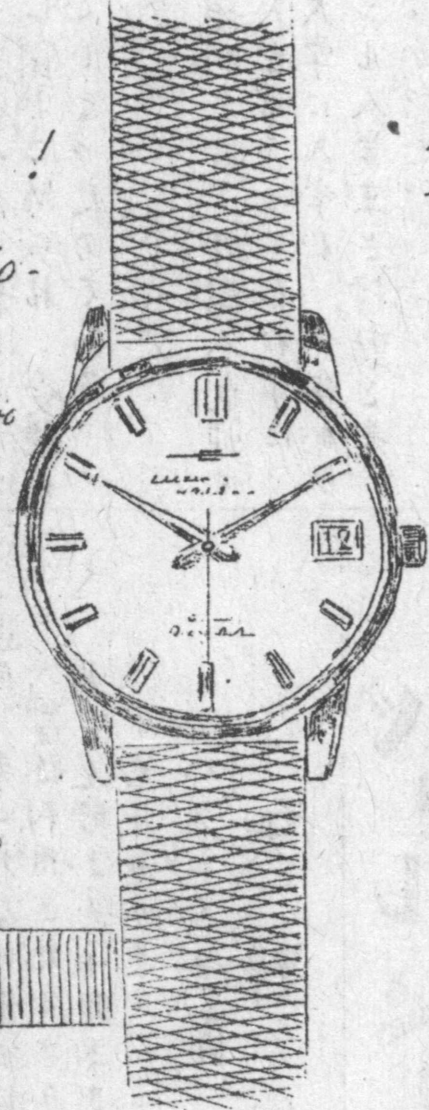
CITIZEN

Precisão
estilo e
qualidade!
-exponente da relojo-
aria do Japão

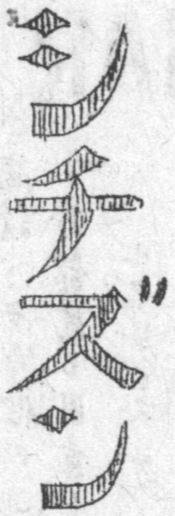
Representante exclusivo
Yendo S/A

Rua Galvão Bueno, 212
7º and. São Paulo

à venda nas boas
casas do Ramo



世界に誇る日本製



うす型でシツキなデザイン
狂わない自働巻き
オート・データ

長く使用して益々好調

39石総金張り

時計なら今やシチズン時代

Bastos では
高田時計店にてお求め
ねがいます

単語の数を少ししか知らない。せいぜい二三百語ぐらいの単語をあやつって話をしているので、案外速く話ができるようになるのである。

ともかく一九三二年にはリオ市のペドロ第二十三高等学校で専修にパスし、ついで国家試験を受けようとした。ところが運悪く革命が突発した。私は心ならずもバスター村に閉じこめられ、受験のチャンスも逸してしまつたのである。

セコよなら、バスター

新しくできた規則では、外国人医師はブラジル国人の入学率をこなわすに、いずれかの国立大学に入学し、一年から六年生までブラジル人学生と行動を共にしなければならなかつた。

私はブラジルに来てからは、あらゆる機会をつかんで医大の教授と親しくなるよう努めて来たので、これが効を奏した。私を非常に可愛がって下さつたベネジクト・モンテネグロ外科教授が率先して協力。サンパウロ州総合大学医科の一年生として入学することが出来た。ちやうどサンパウロ医大の入学試験に合格した一学生が死んだので、そこへ私をはめこめば誰の権利を侵すこともなく入学できるというモンテネグロ博士の意見が通つたのである。

当時日本の高等では教えていなかつたラテン語とかフランス語で少レゴタゴタはしたか、これも友情の活用でうまくやさ、いよいよ一九三五年の五月から正式の学生としてスタートすることになつたのであつた。

その年の三月から入学するまでの三ヶ月間というものは、この入学のための運動に忙殺され、私にとつては全精力を消費すばかりの大事業であつた。もちろん村民の診療は片時たりともゆるがせに出まなかつた。

私のサンパウロ行きは当然バスター村の大問題となつた。農民の人々が一番力にして行きたつた一人しがない医者か村を去つて行くといふので、こうごうたる非難を受けた。しかし医師の開業免状さえ取ればかえつてくる。その間はブラジル人の医師イリネウ君を代診としておく。日本語の通訳には歯科医の石井恒氏が手伝う。私は年に一二回バスター村へ来るというこつとで了解がついた。

七百人の日本人が出席して盛大な送別会が開かれた。そしていざ出発となると黒人組がトラック一台、日本人が何台かのトラックに分乗して村中をあけで四十キロ先のランシヤリア駅まで見送つてくれた。いつまでもいつまでも手を振つて見送つてくれた村民たちの姿もはるか遠く

授業時間の御知らせ

週間	
朝	八時より九時まで
午後	三時半より四時半まで
夜間	七時半より八時半まで
日曜学校	来られない生徒は日曜日の授業を利用されるように勧めます
朝	九時より十時半まで
午後	一時半より二時半まで

以上

バスター学園
矢野俊平

BAR PEDRO

パールペドロ
野沢ペドロ

さしみ、その他一品料理
セルベージヤのさかな

二商設、その他にご利用下さい
お部屋も用意してあります
ルア・テイステノベンゴロ
(宮崎写真館のスタジオ)

見えなくなつた。私の乗つた列車は一降サンパウロへとひた走る。思い出バスターまでの四年間、そしてこれから私を待っているサンパウロでの学生生活、さまざまな思いが胸の中を去来する。

越中さんと炭焼

ブラジルへ渡り、一生を異地で過ごすよいうな運命になつたのも、そもそものはじめは、まつ白いご飯を腹いっぱい食べてみたかつたからである。飛驒の山奥の一寒村で毎日キビだんごや麦めしばかり食つて育つた生活は子供心にも楽しいものとは思えなかつた。

十七才で益田農業補習学校へ乙種農学校へ入学二年半で卒業した。当時の青年にとははかなりうらやましいことであり、勿論私にも楽しい期限であつた。再び農業をやるべく村へ帰つたが、いくらか思想的に生長した私の目に映つたのは、農

御詫びと御礼

去る二月四日カタンジーバ市郊外十字路に於いて私の運転するヘルアが些細の不注意から大型カミニオンはねられるといふとんだ事故を引起こしました。その為め多くの方々に御迷惑と御心配を御掛けし、殊に同行の山田悦治さんの御一命を喪失させ申しました事は御本人へは勿論御遺族に対しても何と御詫びを申上ぐべきか誠に申訳けもございませぬ。

又、事故の犠牲となりました私の三男賀久雄の葬儀(三月八日)の節は区民の方々を始め全バストの方達の親身も及ばぬ御心尽し、本當に御礼の言葉も御座いませぬ。当日^は御多忙中炎暑御遠路^の処御会葬を賜わり且つ過分なる御香華を辱うし遺族一同衷心より感謝申上げます。

本来なれば早速拝眉の上、御詫と、礼申上ぐべきで御座います。が、何分取込中のこととしてその意を得ませず、失礼では御座いますが取敢ず紙上を以って御寛恕を乞ふ次第で御座います。

一九六四年二月十五日

退院の日

面 川 千 賀 雄

(組合シャーカー)

バストス在住の皆様

村の将来には目も向けず、ただ芋や南瓜ばかり作って明け暮れている村人たちの姿だった。

朝は暗いうちから夜は九時すぎまで夜なべまでして働き、得る金は一日平均十九銭五厘、ところが小学校を十年かかって卒業した落第坊主は、町の瀬戸物工場へ働きに行つて一月七十銭の日当を稼いでいる。なんと大きな矛盾であらう。どう考へても悩まずにはいられなかった。その私に心から相談相手になつてくれた人がいた。い太郎先生である。先生は小学校長で本名は田口恒太郎だが、みんなから「い太郎先生」と呼ばれて親しまれてきた。非常に進歩的な頭脳の持主で、小学校令にない教育をするので、何べんも問題になり、私たちは果視学から特別の試験を受けなければならぬ。半日は普通の授業、午後からは一年生から六年生までの子供をそれぞれ好きな学課に部屋別けして、先生も一緒に勉強するといふ方法を取つた。いわゆる才能教育であらう。昔の高等科一年で万葉集の研究をしていける者（現存の細江勝義氏がその一人）もあれば、私のように数学に凝り出し高等科在学中微分積分から三角法、そろばんで開平開立は平気といふ者もあつた。その当時教学指導をした瀬戸上定五郎先生は今なお飛騨高山町に健在である。

また、い太郎先生は修身の時間になると徳富蘇峰先生が書いた国民新聞の社説を子供にわかるように解いてきかせ、修身の本は自由に読ませるだけであつた。君が代以外の唱歌は知らぬし、洪水で電市という生徒が川に落ちて死んだ時は、その追悼式の演壇で泣いてばかりいて一言も述べられなかつた。そのい太郎先生がいつも私の心からなる指導者だつた。十九歳のとき私は、
「農村がこのままではいつかは滅びる。いまでも赤でも青年は全部出稼ぎにゆき三ヶ年間は老人と女子供で百姓をやらるべきだ。」
と説いてまわり、本家のおやじに目玉のどび出る程叱られた。その時かほつてくれたのもい太郎先生だし、またある時は私が、小作人全部を引き連れて北海道移住を計画したため、
「た人ほに松の木を生やす気が」とおやじどもにやつつけられ、
「この社会主義には手がつけられぬしと、歴教年に入れられんばかりのところを助けてもらった。そして越中さん（山崎）と一緒に炭焼をやるだけで許してもらつた。それをとりなしてくれたい。い太郎先生だつた。（つづく）」

時計を落しました

去る二月十二日(木) シネマ帰りに時計を、おとししました。

おひろいになった方は私方又は週報社おとどけ下さい。御礼を致します。

時計 セイコウ印婦人用腕時計

白色、腕輪は黒色

コチヤ区 武 田

売 家

ポツタ 18m X 20m

レンガ建 七室内二室木造

ルア・テイス・デノベンプロ (組合となり) No. 五三八

希望者は左記へ

グロリア区

上ヶ島 照吉

Vende-se Casa

バストス俳句大学高等科

酷 評

蛙 音

1 茄子漬の紫に歯の染まるかと 勝甫

2 前掛に満ちゆく茄子の乳み鳴く

3 夏瘦の嫁のかいなに重き 孫

4 一副は濃紫の 茄子 畑

5 夏瘦や申訳のど箸取りて

1. ふみこむが足りない。歯が紫色に染つたので歯ブラシで磨いたという位に強調してもよいではないか

2. ナス揚ぎの一風景、普通

3. 孫が重いというだけであく、そりくりかえてあはれる小供を描出した!

4. は平凡、5. は弱い

作者はベテランだから少々位強くいって立腹するようなことはないから安心して云うが、もっと鋭い材料で鋭い表現をしていったらどうだい。

とはいふものもの、茄子などという題では、有名な作にも、唸らせられるような佳吟はそう多くないようだが

の茄子もぐや日を照りかへす擲のみね 女

の紫に染まり塩や茄子漬くる しぐね

△焼き茄子喰んで吐き出す子供かな (伊丹)

評、面白と思ふが、季節感がうごくおそれあり。

川あそび たけうちてるこ 2-14

きよねん、わたしは、パノラマへいきました。そして、バ
ルサにのってわたりました。アルモッサをして、みんな
で石をひろったり、水であそんだり、モータボートに
のったりして、一日を川の中であそびました。よるは
十二じごろ、かえりました。
パノラマの川はほんとうに、すてきでした。もう一ど
いくのをたのしんでいます。

川あそび コガキヨコ 1-7*

ワタシハ、トッパンノ、オバチヤンノ、イエニイッダ
トキニ、イトコノ、サダムサント川ヘ、タニシヲト
リニイキマシタ。マルイタノ、デ、ミズガ、ニエツテ、一
ツダケトリマシタ。

川あそび いたがきちえこ 1-9*

わたしは、いとこたちと、川へあそびにいきました。
水にしずまないように、うまきぶくろをもっていきました。
た。そうしてながいあいだ、水のなかであそびま
した。そのあとで、おいしいあべんとうを たべま
した。夕がたトラトルでさわぎながら、かえりま
した。とてましたのしい一日でした。

川あそび こばやしえつこ 1-8*

わたしたちは川へあそびにいきました。わたし
たちは川の中であそんでいました。あたしが川
のふちへいくと、たぐさんのめだかをみしました。あと
でわたしをみるべくもってきました。わたし
しはとてだちにはがしました。わたしたちはいそい
でかえりてきました。そしてうちへついたらあめが
ふってきました。

ウオツリ キョウノタノオ 1-14*

日ヨウビニ、ホクハ、ニイサント二人テ、サカナツリニイ
キマシタ。アツイ、ヨイオテンキダツタノ、サカナハ、ニ
ダテナカナカツレマセン。ヨウヤク、ランバリヤ、カラ
ナド、五、六、七、ツツテ、エウガタ、イエニカエリマシタ。
オカアサンガ、ミテ、「スコシツレタネ」と、ワライ
マシタ。

Vende-se Caibro de Coqueiro

鶏舎建築用
カイブロ (コッケイロ材)

小沢 籠製造所

井戸掘り マノエル

井戸・下水・タンク その他
いかなる仕事でもいたします

小沢内

川あそび 弓削久恵 3-12*

わたしは、サウトリホテルに、たぐさんのおともだち
と行きました。人がたぐさんいました。魚つりをし
ていた人もいました。わたしは、はじめは、あさい、ど
ころで、あそびました。おともだちに、さそわれて、ふかい
ほうに行きました。いとこたちとおべんとうをたべ
ました。すぐみずにはいると、からだにわるいので
一時かんぐらひして、はいりました。三時ごろかえ
るよういをして、カニオンでかえりました。
家につくと、よくあそんだので、おふろにはいって
すぐねました。

川あそび ひうらいつこ 3-9*

このころは、とてもあついで、わたしは、まい日
うちのいけでおよみます。一日になんか、いも出た
り、はいったりします。いけの水は、ころ水になつ
てしまいました。夕方すこしすすくになると、川へペ
スカにいきました。わたしは、ペスカかへたで一ひきもつ
れませんが、たぐタニシをひろってました。おとうとは、う
なぎをつりました。あつ日の川あそびは、ほんとう
におもしろいとおもいます。

俳句酷評欄 (ハページつづき)

此の作者もベテランだから遠慮なく酷評する。

1 夏瘦やスタミナ料理教えられ 菊子
精力のつく料理ということであろうが、新語
を、はさんだというだけのもの

2 芥菜句の題は「夏瘦」われははり 菊子
二んなの、俳句ではない

3 のほほんとし、芥菜を日々を「夏瘦」せ
気楽な身の上であるが、どうしたものか「夏まけ
する」という気持ち、よろしいが、上五の、のほほん
で、ぶつこわし、一エスありそうなもの

4 鴨焼きを賞せいる老を不審がる
しぎやきは、茄子のミソヤキ、孫共が、あんなま
あ、ものをと不審がる、という句意だが、句
意あつてことは足らず。

5 食すすむピリリと茄子の芥子漬
芥子漬はピリリとするもの、ピリリは不要、ナ
スのからし漬で食か道人かというだけでは、心細い

こころして一句一句叩きつづしてしま
のは、ほんとうはよくないことだが、作
者の側でも一応構えを立てておいて、さア
二いと、睨みを利かさなくては、いけないと
思う。初心者の方の作句には、つかみ処は
よくても表現のまづいのが多く、こころい
のは、表現法を知らせてあかすのが指導
というものである。
とこころが老成作家は、自余はじめ易々
として苦吟を生む、一時間も、ひねくって
いると二十句三十句と数だけはそろえる
ことができる。この易々が、いけないの
だと思ふ。安易な句は、バサリバサリと陶
汰しなくてはならない。恰もハイケイを
陶汰する如くに。

二月二十一日(金) 8時半 廿二日(土) 10時
 東映 勢揃関八州 片岡千恵蔵 小林哲子 扇千景
 天然色 北大路欣也 杉方弘樹

二月廿三日(日) 10時 二月廿四日(月) 8時半
 東宝 星屑の町 三橋美智也 山本豊三 伴淳三郎 飯田蝶子
 著色 倍賞千恵子 宋方勝巳 左幸子 朝丘雪路

二月廿八日(金) 8時半 二月廿九日(土) 10時
 日活 青年の椅子 石原裕次郎 水谷良重 滝沢 修
 天然色 芦川いづみ 宮城千賀子 岸野重吉

三月一日(日) 10時 三月二日(月) 8時半
 東映 酔いどれ無双剣 市川右太衛門 月丘夢路 北条まゆ子
 天然色 メトロの天然色マンガ トンジエリ 東千代之介 三原有美子 近藤十四郎

三月六日(金) 8時半 三月七日(土) 10時
 松竹 拝啓天皇陛下様 渥美 清 左幸子 桂小金治
 天然色 長門裕之 中村メイ子 山下 清

三月八日(日) 10時 三月九日(月) 8時半
 松竹 咲子さんちよつと 吉田輝雄 伊志丹 寛 山田五十鈴
 天然色 江利チエミ 柳家金語楼 笠智 良水

三月十三日(金) 十四日(土)
 日活 天然色 銀座の恋の物語 石原裕次郎 和泉雅子
 三月廿五日(火) 廿六日(水) 浅丘ルリ子
 日活 天然色 夕よならの季節 吉永小百合 浜田光夫 ブラジル移民の物語 御期待下さい

Aviso de Cine-Bastos

シネマの夕

来る二月二十五日夜 八時シネマ館

○忠臣蔵 松の廊下刃傷より打入迄 上下巻

○次男坊 高橋貞二主演

招待券御持参の方は席があります(おそくなるもありません)

○このたび バストスに靖国講支部を設けました

二月廿五日午後七時シネマ館にて御神霊奉安 支部結成報告祭があります
 日本国家の護りとなって戦死した方々の慰霊のため御詣下さい
 シネマ入場券は 富吉 方 若干あります
 吹本 美代子

主催 靖国講 バストス支部
 後援 マリリア靖国講総本部

移転御挨拶

初秋のきざしもみえ握まきながら雨量も漸く潤沢となつてまいりました。折柄皆々様には御機嫌麗わしく御精励の御事と拝察申上げます。
 さて私共今度家事の都合上聖に移転することと相成りました。長年住み慣れたバストスの地を離れ、心から親しくして戴いた皆様方とお別れする事になりました。今懐かしい過去の思い出がひしひしと憶われて今更乍らバストスの良さに感慨無量のものがこびります。
 長い間の御交誼を家族一同深く感謝申上げ、バストスの隆盛と在任者皆様方の御繁栄と御健康を衷心より祈念して御挨拶と致します。
 未筆乍ら移転に際し過分の御餞別を賜わり又送別の宴を催して下さいませ。御上聖の御礼は御立寄り下さいませ。
 二月十六日 吹本 美代子

Rua Macacchans 365
 1 PIRANGA S. PAULO
 バストス在任者 御一同様

REUNIÃO de PAIS e MESTRES

O Ginásio São José de Bastos, tem a satisfação de convidar os senhores pais, mestres e demais interessados a comparecerem à reunião de pais e mestres que se realizará domingo próximo, dia 23, a partir das 14 hs, no Ginásio São José. Atenciosamente.

A DIRETORIA

急告

来る二月二十三日(ドミンゴ)午後二時より、ジナジオサンジョゼ校に於て父兄会を開催いたします。重要事項について懇談いたしたく存じます。故、万障おくり合せ、ぜひ御出席下さるよう、御案内申し上げます。今年の新入学生の父兄、ジウルノ(昼間)ノツルノ(夜間)ゴメルシオ(商業)を問わず、サンジョゼ中学校生徒の父兄にお知らせ申し上げます。

(日本語で話しますから、不自由ありません)

サンジョゼ中学校

ジレトール

フレール、バレンチン

バキアーノ

父兄殿

工場及び住宅タツタ共賣却

このたび聖市で工場経営することになりましたので、当地の分、ご希望の方に御譲りいたします。

土地建物だけでもよし、又一部マキナをつけてもよろし、ご希望どうりに致します。委細は御覧の上御相談に応じます。

フレス・ウアルガス

渡辺政男

カロッサ
カルサードス
製造

移転御挨拶

このたび家事の都合で私共サンパウロへ移転することになりました。入植以来廿六年、皆様より格別御世話に相成り御蔭様で余生を送ることができました。誠に有難うございました。急に出発することになりましたので御世話様になった方に御言葉もかけず、申訳ございません。失礼とは存じますが紙上を以って御別れ御挨拶申し上げます。

尚出発に当り御餞別などいただき誠に有難うございます。聖市へ御越しの節は何卒御立寄り下さいませよう。皆様の御繁栄をお祈りして御挨拶と致します。

二月十七日出立に際し

石田幸子

知友の皆々様

Rua Os car Cintro Gondinho
No. 211 APT. 131 130 AND.
São Paulo

バストス学園生徒作文 その二

ペスカ せいけつねお 2-9オ

ぼくは、きのう、いとこペスカに、きました。ぼくたちは、ランバリをつりました。ぼくはペスカをやめて、川にはいって、およぎました。ぼくたちは、たくさん、およいだあとでかえりました。おかあさんが、フリツタしてくださったので、みんなだべました。

川あそび こはやし はつえ 2-12オ

わたしは、ともだちと、うらの川にあそびに行きました。わたしはおよげませんので、ふかいところにいくのは、こわいのです。いまは夏なので川へ入るのがすきです。わたしは、からだのはんぶんぐらいいのふかきところであそびました。わたしたちは、たくさんあそびました。川から出ると、きものをかえました。

原稿 広告 メ切は毎週金曜日ですから、そのおつもりで早目にお出し下さい。

週刊朝日より抜萃

心細い日本選手 オリンピックまで四十八週

このところ陸上の五千米で自衛隊の田谷幸吉選手の活躍はすばらしい。国際スポーツ大会、団体と相次いで四回も日本記録を更新している。六三年七月ワシントン、ニュージブランドに出かけ、毎日欠かさず、25キロから30キロを走って鍛え上げた成果といわれる。ところが日本人として破天荒と思われる彼のベストタイムは4分8秒も国際的に見れば、まだまだ東京大会の標準記録に6秒にも及ばないものである。標準記録とは「六三年十月一日以降、これ以上の記録を出さなければオリンピックに出られない」といわば参加資格の獲得記録、六三年四月末、国際陸連が決められたもの。

オリンピックは年々盛んになり各国からの参加人員もふえる一方、そのため弱い選手をはずし制限選手だけで運営をスムーズにというわけ、参加することに意義がある。オリンピック精神に及ぶようだが心配無用、一国について一種目ひとは、どんなに弱くても参加が必須とめられている。このルールが適用されるのは二人以上参加したい時だけ。

東京大会の標準記録は日本にとっては少々きつい。これを上回る日本記録は「破れざる戦前の記録、百米10秒3、吉岡隆徳、走幅とび7米78、南部忠平、を含めても三十種目中僅かに十三種目、前回のロンドン大会の標準記録と比べると、相当レベルが高くなっている。中でもグラスファイバー時代に入った棒高とびの4米60と女子二百米の24秒2は、只マ大会二倍、女子八十障害の11秒は三位、その他も殆んど五、十位に当る。

いまの処選境いちぢるしいホーソ、依田郁子選手が八十障害に10秒6の好タイムを出したからといって、油断は禁物、それだけ外も進歩しているわけで、突発したかうと、いつか優勝とは勿論いえない。

現在(六三年十月)参加資格のある日本人は、たった八名、一種目三人出られ相なのは、三飯とびだけ。ハンマン扱いは二人は出られそう。あと一種目一選手組だ。特に男の走る種目は望みうすなので、そんなところから「この次は必ず突破してみせる」というのは、切り切りホーソの円谷選手に期待が果っている。

カイシヤホスタイルが不明のため毎日ユビンぶつが迷ってこまります。郵函のない方で、心安い方と共同で使っている方は、週報社へお知らせ下さいませ。(週報購読者は全部わかっていきます)